

報告にあたって

聖学院大学では全国的にも早い段階から入試改革の一環として AO 入試を導入してきました。従来の学力偏重の入試だけでなく、受験生の人間性、将来の夢など意欲を重視した選抜方法の導入でした。現在では、それを発展させて「入学者の受け入れの方針」に従い、学科の学びにつなげた入試方法を行っています。

本学の他の入試方法も「選抜するのではなく受験生の可能性を見出す入試」という理念で入試改革を断行しています。個性豊かで伸びる可能性を秘めた多様な学生を受け入れることで、大学をより特色のあるものにするという狙いをもっています。

同時に、学力面や学び方で不安を抱える学生や多様な学習歴をもつ学生を受け入れるにあたり、大学での学びに必要なリテラシーを身に付けてもらい入学させる「導入教育」(入学前準備教育)は入試改革と表裏をなすものとして、その重要性が増してきました。

そこで本学では、入学までの学力を確認し、4年間の目標を定める仕組みとして、通学制入学前準備教育を取り入れました。実施の方法や手法は、導入以降、時代や教育方針に合わせて変化しています。今日では学力の定着のみならず、大学教育への円滑な移行を第一の目的に名称も変更し、入学前準備学習として今日に至ります。

11月という入学にはまだ早い時期から、入学決定者に対応した入学前準備学習を開始、「コミュニケーションスキルの向上」、「大学教育への円滑な移行」、「基礎学力の定着」に焦点を当てプログラムを展開しています。

具体的には、豊かな人間性と関係性を養うコミュニケーションスキルの向上(全学プログラム)、大学教育の魅力の一端を伝え、学習意欲の向上を図り、円滑に大学教育に移行する(学科プログラム)、学び直しによる確かな基礎学力の定着(eラーニングプログラム)を3本柱とし、入学後の大学生活や学びのイメージの具体化に向けて、さらにはその先のキャリアデザインも意識しつつ、多様な取り組みを行っています。

聖学院大学
基礎総合教育部長 渡邊正人